

【緒言】経皮的心肺補助（以下PCPS）の重大な合併症のひとつとして下肢阻血の出現が挙げられ、その予防・改善策としてPCPS側枝などからの順逆行性下肢灌流の有用性を示す報告が散見されるが、それらは何れも侵襲的であり、また遠心ポンプ送血では下肢灌流量自体が末梢血管抵抗の影響などから不安定となる可能性がある。今回我々は、下肢阻血兆候発現早期から末梢循環不全改善を目的とした炭酸ガス含有ジェル剤（以下 eCO₂ Gel）の適用を試み、局所酸素飽和度（rSO₂）等の経時的評価と臨床症状の経過から、PCPS 中の下肢阻血に対する新しいアプローチとして興味深い知見を得たので報告する。【症例および経過】60歳、男性。平成25年4月、急性肺血栓塞栓症による心肺停止のためPCPS導入。翌日、送血カニューレ留置側（左側）下肢末梢にチアノーゼ等を伴う阻血兆候を認めたため、eCO₂ Gel を推奨プロトコールに従い左側足関節以下全体に塗布し、セロハンフィルムで密閉した。左右脛脛部および足背部の rSO₂ を連続モニタリングし酸素需要供給バランスを評価した。【結果】塗布後より左側 rSO₂ の著明な上昇を認め、約2時間後にはプラトーに達し左右差が消失した。また、Blood Volume Index は、左足背部で有意に上昇し、末梢循環の改善が示唆された。【考察】eCO₂ Gel の使用により、皮膚毛細血管・筋組織への血流量および酸素供給量の増加に伴う臨床症状等の改善が得られたと推察され、従来 of 下肢阻血対策に比し簡便で非侵襲であることと併せ、有用性が高い可能性があると考えられた。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号